

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	60	学校名	県立取手第二高等学校						課程	全日制		学校長名	池田 聡			
教頭名	鈴木 恒一										事務(室)長名	芦川 孝明				
教職員数	教諭	32	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	54
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数			
	普通科		60	60	41	75	35	77			136	212	12			
家政科		0	40	1	39	1	37			2	116	3				

2 目指す学校像

<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動する学校 2 社会で生きていくために必要な資質・能力を身に付けることができる学校 3 自己のキャリアについてしっかり考え、目標に向けて果敢にチャレンジできる学校 4 家庭・地域社会との相互理解を図り、家庭・地域の信託に応える開かれた学校 5 教職員相互が指導力の向上及び環境の整備を図り、一致協力して組織的かつ計画的に教育活動を展開できる学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え行動し、他者と協力して課題が解決できる人財 ○自己実現に向けて、ひたむきに努力ができる人財 ○地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた学習形態 (少人数、TT等) による学力の向上 ○協働的な体験学習の中で成功体験を積み重ね、自尊感情や自己肯定感を高める ○文・理・家政系それぞれのニーズに合わせた知識・技能の習得とキャリア教育により、多様な進路希望の実現

別紙様式 1 (高)

<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>○主体的に取り組む姿勢を持ち、学習や部活動、特別活動に積極的に参加する意欲のある生徒 ○学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自分の進路実現を目指して日々努力する生徒 ○家庭科の学習に興味を持ち、専門的な知識や技術を身につけるよう積極的に取り組む強い意欲のある生徒</p>
---	---

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による学校生活アンケート結果では84%が「授業の内容が理解できている」と回答しており、基礎的な学力は定着しつつある。しかし主体的に学ぶ姿勢が弱く、家庭学習に取り組んでいる生徒は49%、課題に積極的に取り組めない生徒が15%と学習時間・意欲共に不足している生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用による個別最適な学びの促進。 学習課題の精選や学習方法の工夫と改善。 学習意欲の向上と家庭学習の習慣の定着。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進学希望者は毎年80%程度で、大学短大への進学希望者は30%を超えている。総合型選抜や一般選抜で最後まで諦めずに挑戦する生徒が増加している。学校斡旋による就職内定率は100%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路希望先の早期決定。 適切な進路選択と実現に向けた支援の充実。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身に付いている生徒がほとんどであり、問題行動による指導件数も少ないが、服装・頭髪や情報モラルの面で規範意識の低い生徒も若干見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に対する実態の把握と理解に向けた継続的かつ段階的な指導の工夫。 HR、学年、生徒指導部を軸に家庭や関係機関との連携の強化、および規範意識の徹底・向上。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事には積極的に参加する生徒は95%であるが、ボランティアなど自主的な活動や取組に関してはやや消極的である。部活動の加入率は約46%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動するための支援の工夫と、積極的な参加の促進。 部活動の加入率・定着率の向上。

別紙様式 1 (高)

働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤日の設定や時差出勤の奨励等、勤務時間の管理を行い、改善の傾向にはあるが、時間外勤務の常態化はなかなか解消できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークライフバランスを含めた働き方への意識改革の推進。 ・ 学校行事の精選や、業務の効率化による教職員の適正な勤務環境の確立。
-------	---	--

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力の定着を図り、自ら学び、課題を見つけ、行動できる態度の育成に努める。 2 規範意識の醸成ならびに自律的な生活習慣の確立を図る。 3 望ましい勤労観・職業観の育成に努め、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。 4 心身共に健康で、豊かな心を育成するとともに、社会に貢献できる人間力を培う。 5 教職員の働き方改革を推進し、職務の効率化と質の向上への意識高揚を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学力を向上させるための授業実践及び授業改善	授業実践 ①少人数授業、課外授業等の充実を図り、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高めるとともに、入試や資格試験に対応できる学力の向上を目指す。 ②学校図書館等の積極的な活用を促し、自学自習の習慣の定着を図る。 授業改善 ③P D C Aサイクルによる学習指導の工夫や改善を図る。 (K P I) 生徒による授業評価・授業満足度の評価項目 5 で校内平均 3 . 5 以上。 ④教科指導における I C T の活用を推進し、生徒の実態を踏まえた課題や内容の精選を通して、個別最適化に向けた指導の充実を図る。
社会で通用するマナーやルールを身に付けさせる生徒指導の充実	⑤時間を守り (時) 、礼を尽くし (礼) 、身だしなみや周囲の環境を美しく保つ (美) の徹底を図る。 ⑥段階的指導を有効に活用し規範意識を高めるとともに、公共の場におけるマナーを

別紙様式 1 (高)

	身に付けさせる。
キャリア教育の推進	<p>⑦各種進路行事や課外の在り方を検討し、個に応じた進路指導の推進を図る。</p> <p>⑧デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。</p> <p>⑨様々の教育活動や行事等と関連付けながら、個々のキャリアプランニング能力を高め、3年生の時点で進路希望未決定者を0%にする。</p>
豊かな心の育成	<p>⑩「道徳」や「探究」における協働的な学びを通して、他者や社会、自分と異なる世界との関わりを学び、人間関係構築力やコミュニケーション力を養う。</p> <p>⑪学校行事や特別活動を通して、集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。</p> <p>⑫面談や教育相談による心のケアの充実を図る。</p>
主体的で活力ある学校生活の実現	<p>⑬HRや学校行事等においてキャリアパスポートを活用し、自らの高校生活のあり方や振り返りを通して、自己理解の深化と将来について主体的に学び考える力を育む。</p> <p>⑭生徒会活動や各種委員会活動の魅力化・活性化を図り、主体的に活動する姿勢を育成する。</p> <p>⑮活発な部活動を積極的に評価することで自尊感情・活動意欲を高め、部活動の加入率の上昇と活性化を図る。</p>
働き方改革の推進	<p>⑯現行の業務内容について点検・見直しを行い、スクラップアンドビルドによる業務改善に取り組み、勤務時間の適正化に努める。</p> <p>⑰ICTの活用による情報の共有化や会議の効率化を図る。</p> <p>⑱「部活動に係る活動方針」に基づき、環境を整備し、適切な運営体制を構築する。</p>